



# 茨 P タイムス vol.6

## 教職員の働き方改革 特集

### 学校の働き方改革シンポジウムを開催しました

令和5年12月23日(土)、ザ・ヒロサワ・シティ会館大ホールにて子ども支援茨城連絡会(会長/茨P連 草地会長)が主催による「学校の働き方改革シンポジウム」を開催しました。シンポジウムのコーディネーターは、茨城新聞社論説員で元教員の柳田尚久さん。パネラーは県内の校長・教務主任・若手教員の代表者、保護者の代表として茨P連の草地会長の4名です。話し合いは「部活動」「教員不足」「保護者対応」の3つテーマを中心に様々な観点から行いました。

【詳しい内容は下記のQRコード「茨城新聞の特集記事」やNHKニュースをご覧ください。】



シンポジウムの様子

#### 《シンポジウムに参加しての感想》

改めて、教職員の働き方についての現状を知り、考えるきっかけになりました。

#### (1)勤務時間の矛盾

部活動の地域移行の話題が中心となりましたが、そもそも中学校教員の勤務時間が問題です。

県内の中学校教員の勤務時間は、休憩を除いて7時間45分。とある学校を例にすると午前8時10分から午後4時40分が定時と言われる時間です。しかし、学校に生徒がいる時間は、午前7時45分から午後6時までとなっています。先生は生徒がいる時間帯は、安全なども考えて学校にすることが多いので、これだけでも約2時間は超過しています。教員の働き方というより、仕組み自体が合っていないかと思います。

#### (2)保護者対応にも多くの時間が割かれている！

先生が授業以外で多くの時間割くのは、保護者への対応だそうです。義務教育は行政サービスと同じではありませんし、塾や習い事でもありませんので、保護者としては「子どもたちの学び」に向けて先生と一緒に協力をしていくという思いが大切なのかと感じました。

会長 草地 学

詳しくは  
こちらから



茨城新聞特集記事



NHK ニュース



茨 P 連から10 名参加！

## 学校の働き方改革教育懇談会(1/20) ルポ



1月20日(土)、茨城県教職員組合が主催した「学校の働き方改革教育懇談会」に茨 P 連から草地会長をはじめ10名で参加してきました。話し合いはグループディスカッションの形式で行われ、私たちは、保護者の立場で意見を述べてきました。その中では、「PTAの担当である教頭先生や教務主任を訪ねていくと、お休みの先生の代わりとして授業に出ていて職員室にいないことが多い。」「中学校では、子どもたちが学校にいる時間の方が、先生の勤務時間より長い」などの意見や、先生の予定人数が確保できず、欠員の状態のまま学校運営を進めなければならないことについて、「会社では考えられない。臨時の雇用で欠員はすぐに補う」などたくさんの意見が交わされました。その中での特に大きな課題の1つとして「保護者対応に割かれる時間の大きさ」についても話題になりました。これについては、私たちが茨 P 連理事会で、学校の現状についてディスカッションをしてみることにしました。

会長 草地 学

### 《参加者の主な感想(抜粋)》

●学校の働き方改革に関する意見交換を学校長や県議会議員、PTA、教職員組合等の代表者が一堂に会し、それぞれの視点からの提案や懸念事項を共有することができました。また、より効果的な働き方改革の方針を模索する良い機会となったと思います。子ども、学校、地域が笑顔になれるようあらためて保護者としてできることを協力していきたいと思いました。理事 渡邊義政(水戸市 P 連会長)

●教職員が求めていることを保護者が知る場がないために、本来の「子どものため」にまで行き届いておらず、教員の働き方改革＝教職員のための改革で止まっている。大きな改革をすることは困難でも、学校の運営体制の見直しなど我々でもできそうなところから少しずつ教職員の労働環境を改善していくことにより、次世代への子どもたちのためになるのではないだろうか。理事 水梨伸晃(牛久市 P 連会長)

●懇談会に参加させていただき、改めて先生方の大変な実状を知ることができました。PTA役員として、13年携わらせていただいておりますが、コロナ禍をきっかけに以前よりも学校と保護者との距離があるように思います。私たちにできること、どんな小さな事でも構いませんので、保護者、地域にお声かけいただき、三位一体となり、子どもたちが笑顔で安心して過ごせる環境を作っていけたらと思います。理事 長谷川陽子(県北子ネット委員長)

●朝いた先生が仕事帰りに学校に寄るとまだいる。帰る気配は無い。これが状態化している。改善するにはお金と人を投入するより他はないだろう。PTA役員を8年やった。働き方改革のことを考え、取り組んでいるうちに、子供たちの義務教育は終わってしまった。文科省の役人や教育委員会はこの会に参加し、皆の声に真剣に向き合うべきだ。理事 内田智博(つくばみらい市 P 連会長)